

ひらたけの作り方

原木

■樹種

最適樹: クルミ・ポプラ・エノキ・ヤナギ・ブナ・ハンノキなど。
 適樹: トチ・サクラ・クワ・シデ(ソネ)・ネム・アオギリなど。
 不適: コナラ・ミズナラ・カシ・シイ・クヌギ・クリなど。

■伐採

時期: 半紅葉期から、新芽が出るころまでに伐採する。
 太さ: 5cm位から、20cm位のもの。

■玉切り(栽培に適した長さに切りそろえること。標準は90cm)

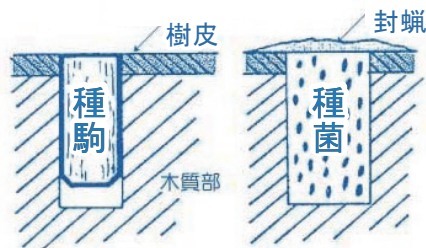
- ・水分の多い木(ヤナギ・ポプラなど)は、10日くらい葉干し(枝干し)してから玉切りする。
- ・長さは、15cm~90cm位に玉切る。
- ・玉切りしたら、あまり乾かさないうちに植菌する。



植菌

■時期

- ・原木は乾きすぎないうちに植菌する。
- ・10月から5月頃まで。
- 秋の植菌: 秋に伐採した原木に植菌し、仮伏せをして冬を越す。
- 春の植菌: 冬から春に伐採した原木を、5月まで植菌する。



〈コマ菌の場合〉 〈オガ菌の場合〉

■方法

- ・樹皮面に、専用の孔明器か回転数の早い電気ドリルにキノコ用のキリ(8.5ミリ)をつけて、千鳥状か、ラセン状に植え穴をあける。
- ・木口の近くや死節・傷口の付近におおめに植える。
- 太い原木には、木口面にも植菌する。

駒菌・・・直径8.5mm、深さ20mm位の穴をあけ、樹皮面と平に種駒を打ちこむ。

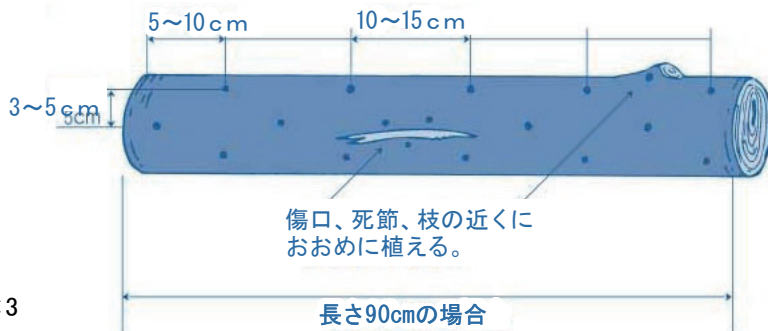
オガ菌・・・直径12mm、深さ20mm位の穴をあけ、オガ菌を樹皮面と平に移植器で詰め、そのうえに解かした封蠟(ふうろう)を塗る。

植菌数・・・原木の木口直径(cm)の3~4倍の数。

例) 植菌数 = 木口直径(cm) × 3 30ヶ = 10cm × 3

植菌列数・・・原木の木口直径(cm)の1/2の数。

例) 植菌列数 = 木口直径(cm) ÷ 2 5列 = 10cm ÷ 2



木口直径(cm)	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26
植菌数(個)	24	30	36	42	48	54	60	66	72	78
植菌列数(列)	4	5	6	7	8	9	10	12	14	16

HowTo情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。



仮伏せ (菌の活着を良くし、ある程度菌糸を伸長させるために行います)

■場 所

・水はけが良く暖かい木かげ、散水のできる屋外やハウス。

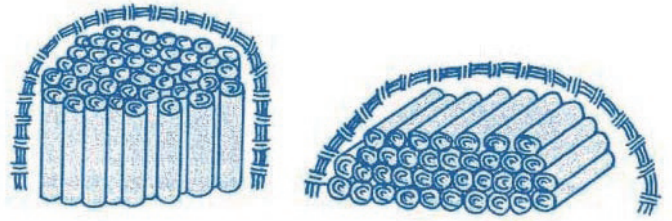
■期 間

・植菌から5月いっぱいまで、おそくとも入梅前まで。

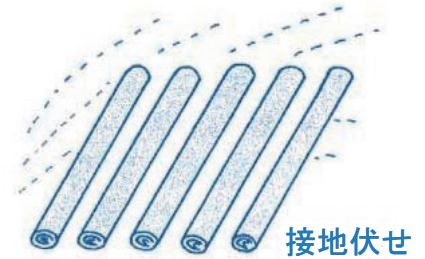
■方 法

- ・立て寄せか横積み(1m以下)にして、周囲をコモやムシロ・ダイオシートなど雨の通るもので囲み、厳寒期に限りビニールなどで囲み保温する。
- ・上部同様とし、直射日光をさける。
- ・植菌時期がおくれた場合は、仮伏せをしないですぐ本伏せにする。
- ・植菌後、一週間程度毎日散水する。
- ・期間中は、乾燥に注意して時々(1週に2~3回)散水する。

〈仮伏せ例〉



〈本伏せ例〉



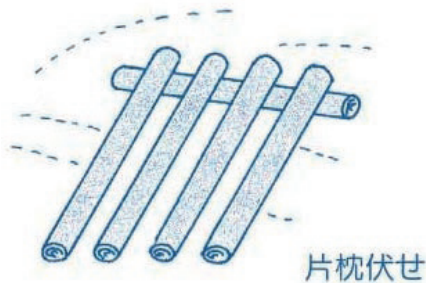
本伏せ

■場 所

- ・水はけが良く、涼しく湿気のある空気が流動するところ。
- ・チラチラ散光線が入る雑木林か針葉樹林内。
- ・南東、南西向きの斜面や平場など。
- ・散水施設があるところ。

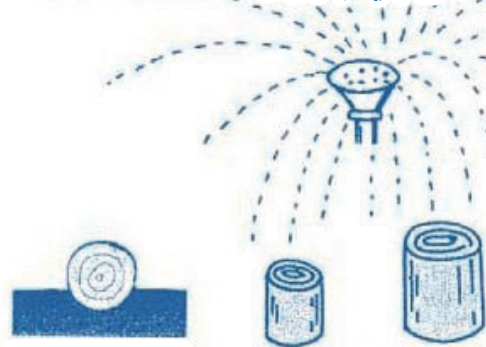
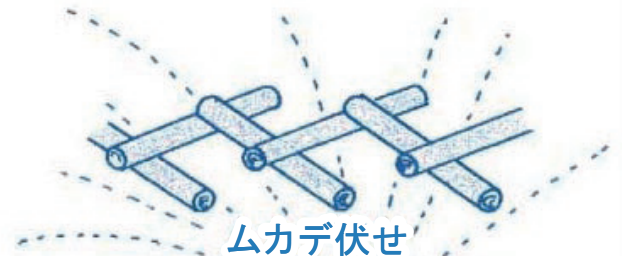
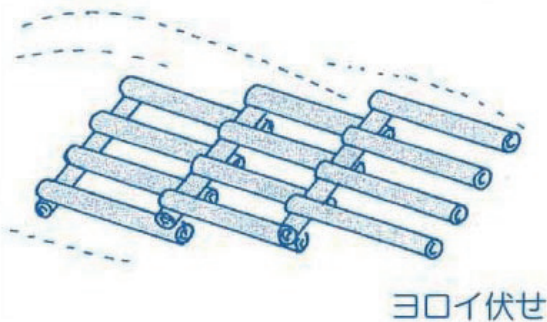
■方 法

- 適 地: 地面に直接ならべ、接地伏せにする。
- 乾燥地: ホダ木を土中に浅く埋める。
- 過湿地: 片枕伏せか、低姿勢のヨロイ伏せやムカデ伏せにする。



■時 期

- ・ホダ木の木口に菌糸紋(キノコ菌が木口に現れた状態)が表れた頃、入梅に入る前に本伏せする。



土伏せ
※ほだ木を地面に
1/3位埋めます。

立て伏せ
(短木過湿地)



本伏せ

■天地返し

- ・梅雨期と梅雨明けに、地面に接してた部分を逆にして菌糸を原木に均一に蔓延させる。

■梅雨期

- ・水はけを良くし、雑草などを刈り取り、風通しをよくしてムシないように管理する。

■夏 期

- ・乾燥するときには、スプリンクラーなどを利用して散水する。
- ・直射日光の当たるところは、ダイオシートなどで遮光する。



短木土伏せ

発 生

■発生操作

- ・発生する2~3週間前から、ときどき散水してホダ木に活力を与えておく。

■発 生

- ・品種によっても異なる気温が20~15℃以下になると発生が始まり、5℃位まで発生する。
- ・植菌した年の秋に少し発生するが、二夏を過ぎた秋からが最盛期となり次第に少なくなる。

